

〇〇中研修

私の「腕の見せどころ」 ～中2生徒を前に～

名城大学 曾山和彦
2012.2.7

1

Q-Uを使うならば 強い「ネガティブ」の色を消す

<例>

- ・自分はクラスの中で「存在感」がない
- ・自分は悩みを相談できる先生がいない

「思春期」まっただ中
疾風怒濤の大嵐に巻き込まれている船
大人、権威等に反発したい時期

本当は言葉をかけてほしい生徒たち

2

夜回り先生の言葉

大人は子どもに1日、10回は言葉をかけてほしい
言葉がかかるといことは「愛されている」ということ
子どもは大人から愛されれば愛されるほど非行から遠ざかる(水谷修先生の講演より)

実は思春期の子どもたちも……願っている

ある校長の後悔

中学2年の担任をしていたとき、何度声をかけても無視する女子生徒がいた。なので、3学期にはあきらめて声をかけることをやめた…
20年後、同窓会にその生徒が出席したので、「おまえは、あの頃、何度声をかけても返事をしなかったなあ」と昔話をした。その時、返ってきたのは、「だって、先生は3学期にもう声をかけてくれなかったでしょ」…

もう少しで、トンネルが貫通したかもしれない

強い「ネガティブ」の色を消す -「伝わる言葉」3つのアプローチ-

1. 名前を呼ぶ
2. 褒めずに、**勇気づける**&認める 「**隠し褒め**」
(**ありがとう**、うれしい、助かった)
口にも耳にもなじませる!
3. 間接情報(部活で〇〇、校長先生が〇〇、等)を使う「**陰褒め**」
(* 隠し褒め、陰褒めは齋藤茂太先生の著作より)

複数の物差しで生徒の情報を集めておく

5

生徒の自尊感情を育むアプローチ

- ・思春期段階の生徒の自尊感情を育むには、大人(教師・親)以上に、友人からの評価が必要
- ・エンカウンターを使うなら、「四面鏡」がベスト
- ・教科、行事、部活等、様々に転用可能な「四面鏡」

6

おわりに

- ・自分自身にだめ出しをしないこと
- ・共に歩いてきた道を振り返る
- ・プロとしての「腕」を鍛え続ける

次にお会いするときには、お互いに太くなった「腕」を見せ合えるよう、学び続けましょう！